

閲覧用



熊野川懇談会ニュース

第14回熊野川懇談会を開催



撮影日：令和3年6月22日

Contents

- 第14回懇談会の概要
- 熊野川懇談会へのご意見受付方法・資料入手方法

No.15
2021年7月発行

第14回熊野川懇談会が開催されました

第14回熊野川懇談会が開催され、明日の熊野川整備のあり方（追記版）の報告、前回の熊野川懇談会でのご質問に対する回答、河川整備基本方針の変更、河川整備計画の方向性、今後の予定について、意見交換が行われました。

第14回熊野川懇談会の主な内容は以下のとおりです。

<第14回 熊野川懇談会の概要>

◆ 開催日・場所

- 開催日：令和3年6月27日（日）
- 開催方法：WEB会議
（Youtubeでのライブ配信を実施）
- 参加者：懇談会委員 14名
河川管理者等 7名



■ 第14回熊野川懇談会の様子

◆ 議事内容

1) 「明日の熊野川整備のあり方（追記版）」の報告

藤田委員長より、「明日の熊野川整備のあり方（追記版）」が前回の熊野川懇談会での意見などを踏まえ、最終版として6月24日にとりまとめたことが報告された。

2) 前回の熊野川懇談会でのご質問に対する回答

紀南河川国道事務所より、前回の熊野川懇談会で各委員から受けた降雨分布や気候変動モデルなどに関する質問に回答した。

3) 新宮川水系河川整備基本方針の変更について

紀南河川国道事務所より、第111回河川整備基本方針検討小委員会で審議中の「新宮川水系河川整備基本方針の変更」の概要について報告した。

（委員からの主なご意見） ■委員からの意見 □紀南河川国道事務所からの回答

- H23年9月の紀伊半島大水害見合いの基本高水24,000m³/sから1,000m³/sを利水ダムでピークカットするという説明だが、H23年9月の紀伊半島大水害では利水ダムで200m³/sしかピークカット効果はなく理屈に合わない気がする。（横田委員）
□資料は、事前放流の効果として現況施設を使った場合の流量の低減効果を試算したものである。河川整備基本方針の1,000m³/sのピークカットについては、放流設備の改造等も含めて低減を見込んでいる。（紀南河川国道事務所）
- 24,000m³/sに対応した河道改修を行うと一部河道沿いの家屋移転が必要になるとのことだが、危険なところから移転できるという選択肢は残した方がいいと思う。（加治佐委員）
□24,000m³/sの洪水に対して、3つの工法を比較した結果、社会的な影響の大きさから、家屋移転を伴う引堤や堤防嵩上げは採用せず、治水の原則である水位を下げるための河道掘削を採用することを考えている。（紀南河川国道事務所）
- 23,000m³/sを流すための掘削は、今実施している掘削より掘削量がかなり増える感じが。（藤田委員長）
□かなり増えていくと思う。掘削しても再堆積するので、砂州の維持管理等を含めて20年から30年間で実現的な掘削を目指していきたい。（紀南河川国道事務所）

4) 河川整備計画の方向性について

熊野川河川整備計画の方向性について、つぎのとおり確認された。

1. 熊野川河川整備計画の対象期間は概ね30年、対象区間は国土交通省の管理区間である熊野川0.0k~5.0k、相野谷川0.0k~5.7k、市田川0.0k~2.0kを基本とする。
2. 熊野川河川整備計画には、国土交通省が主体の河川整備だけでなく、関係機関と連携する事項、また流域全体で推進する事項を位置づける。
3. つぎの主な事項について、「明日の熊野川整備のあり方」の留意点を踏まえた実現可能な整備として、河川整備計画に位置づける方向性とする。

(具体的な実施事項)

・「流域治水プロジェクト」

国土交通省が主体の河川整備だけでなく、関係機関と連携する河川整備や、必要な流域内の事業についても推進していく。

・「河川改修」

- ① 河道掘削は、河道内における重要な歴史・文化や、自然環境に配慮して実施する。
- ② 内水対策は関係機関と連携・調整しながら実施する。
- ③ 地震津波対策は、施設の耐震・操作性向上の実施に加え、関係機関と連携し、高台整備などの津波避難場所の確保を推進する。

(委員からの主なご意見) ■委員からの意見 □紀南河川国道事務所からの回答

- 河道掘削が今後も続くとのことなので、掘削後の河原などで植物の群生ができる環境をどう保全していくか検討する必要がある。(藤田委員長)
- 熊野速玉大社の前の河原は掘削により無くなるのか。歴史的に重要な場所なので、歴史的な景観保全と言う意味からは河原が無くなるのは非常に抵抗がある。(山本委員)
□長期的な河川整備でも干潟や重要な川原は保全する対象と考えている。20年から30年間の河川整備計画では、どこまで掘削するのかというところは、委員の皆様の意見をお聞きし、地元の方のご意見も踏まえて、段階的な整備を考えていきたい。(紀南河川国道事務所)
- 干潟の重要生物で「イドミズハゼ」というハゼ科の魚類があげられている。これは地下からの湧水が生ずるような場所が生息環境の重要な条件になっている。掘削により湧水環境に大きな影響を与えるので、生息環境の保全について時間をかけて検討してほしい。(高須委員)

・「既設ダムによる洪水調節機能の強化」

つぎの事項について、関係者との議論を重ね、検討を行う。

- ① 事前放流による既存ダムの空き容量の確保により、ダム放流量を低減できるよう洪水調節機能の強化。
- ② 降雨予測の最新技術の活用・検討。
- ③ 放流設備の改造などの調査・検討。

・「総合土砂管理」

治水、土砂の利活用及び環境保全などへの効果や経済性を考慮しながら、土砂発生源の抑制や堆積土砂の除去、掘削土砂の有効活用など流域内の関係者が連携し、総合土砂管理の方策を検討する。

(委員からの主なご意見) ■委員からの意見 □紀南河川国道事務所からの回答

- 河口砂州の沖合が浅くなっているように見えるが、波浪で本川に押し寄せる砂州の形成に大きく関連しているのではないかと。(瀧野委員)
□砂州形成のメカニズムを把握するため、モニタリング調査を含めた対応をしていきたい。(紀南河川国道事務所)
- 土砂の再堆積を考えると、かなりの土砂を取っていかないといけないことになる。この土砂は上流から来るので、直轄管理区間より上流の県管理区間から土砂を取っていかないといけない。掘削したところには土砂が溜まるので維持管理が相当大変だと考えられる。(井伊委員)
□20年から30年間の河川整備計画では、段階的に掘削をしていながら影響を確認していきたいと考えている。直轄管理区間だけでなく、河川全体でどう対応していくかを考えていきたい。(紀南河川国道事務所)

・「危機管理対策」

超過洪水に対しても自治体や住民と連携した対策を実施し、被害の軽減を図っていく。関係機関との連携により、住民の避難行動に繋がる配慮、工夫による防災情報の発信を行う。

5) 今後の予定

河川整備計画(案)公表までのスケジュールが確認された。

第15回熊野川懇談会が8月上旬に開催されることが確認された。

6) その他

(ニュースレターの配布)

- ・第14回熊野川懇談会のニュースレターについては、閲覧用1部の設置のみとし、配布は行わないことが確認された。

【懇談会へのご意見受付方法】



ホームページ
による受付

熊野川懇談会に関するご意見等は「熊野川懇談会」のホームページの「ご意見」のバナーをクリックしていただくと「熊野川懇談会へのご意見等」のページが開きますので、「意見を送る」をクリックしていただき、ご意見等をお寄せください

熊野川懇談会ホームページ

https://www.kkr.mitgo.jp/kinan/river/kumano_kondan/index.html



FAX・原稿送付
による受付

FAX をご利用の場合、または原稿送付の場合は以下の連絡先にご連絡ください。

【連絡先】熊野川懇談会 庶務

三井共同建設コンサルタント株式会社
(担当：豊島・楠・升水・牧野)

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番1-900号

大阪ベイトワーオフィス9階 FAX：06-6599-6050

【資料入手方法】



ホームページ
による入手

懇談会資料は、熊野川懇談会ホームページよりダウンロードできます。

熊野川懇談会ホームページ

https://www.kkr.mitgo.jp/kinan/river/kumano_kondan/index.html



熊野川懇談会ニュース No.15

【編集・発行】熊野川懇談会 2021年7月発行

【連絡先】熊野川懇談会 庶務

三井共同建設コンサルタント(株) (担当：豊島・楠・升水・牧野)

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番1-900号大阪ベイトワーオフィス9階

Tel: 06-6599-6024 FAX: 06-6599-6050

熊野川懇談会ホームページアドレス https://www.kkr.mitgo.jp/kinan/river/kumano_kondan/index.html

※メールにつきましては、ホームページの「ご意見等」をご利用ください。